

令和3年度社会福祉法人白ゆり共生会本部総括

1 はじめに

決定機関としての評議員会、執行機関としての理事会の下で、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組をする責務を等に努めてまいりました。

組織体制にはまだまだ多くの課題を抱えている事も事実とし、本部体制の強化、財政基盤の強化、職員体制の整備等、遅い歩みですが一步一步前進して来ているものと考えています。

法人の理念である、「ノーマライゼーション」社会を目指して、次のことを基本目標として今後とも事業展開を図ってまいります。

- (1) 私たちは障害者の基本的人権を尊重し、利用者の主体性を重んじ、その人らしい自己実現を図り、より豊かな人生を送ることが出来るよう支援します。
- (2) 私たちは地域社会のなかの重要な働く場として認識し、地域福祉の向上に寄与するように取り組みます。
- (3) 利用者・職員の幸福な人生に寄与するために安定した施設運営に取り組みます。

2 法人本部の強化について

- (1) 事務局長は4月より有期雇用ながら週30時間の専任常勤体制で勤務しておりましたが、法人全体を把握するには困難な事が判明いたしました。本部部門の仕事を簡素化し、さらに体系化する事が必要という結論に至りました。令和4年度は本部集中計算体制を確立したいと思えます。また、事務員は正規職員1名を採用し事業所の事務部門のさらなる軽減を図っていきます。

(2) 経営会議と施設長会議について

毎月1回の施設長会議では事業報告書の様式の統一をはかり、理事会の前段としての経営会議を充実させ、各施設の課題を検証しながら、課題解決を図ることとし、施設の課題を共通認識できるよう会議を重ね、一定の機能を果たしています。今後も定期的開催し、施設長会議と経営会議を通して、理事会、評議員会に向けた意思統一を図ります。

(3) 法人ホームページについて

令和3年度においては令和2年度の事業報告、決算報告等のみをホームページを通して公開しております。

- (4) 新型コロナウイルスが全世界に感染が拡大し、他県同様新型コロナ感染者が増大してきている。法人としての対応、各事業所でもいち早く対応することが出来、今のところ利用者、職員に感染者を出すことなく経過している。引き続き気を引き締めて対応していきたいと思えます

3 施設運営について

- (1) 令和3年度において、有期雇用職員1名正規職員1名の中途退職が生じております。

年度内に募集を行い正規職員1名の採用をしました。

(2) 自立生活支援センター北上

ア サービス利用計画作成について

目標 110 件を設定して取り組んできましたが、107 件の実績となりました。モニタリングも目標を 230 件に設定して取り組み 308 件の実績となりました。今後は、今年度実績をベースにして新規サービス利用者の利用計画をいかに増やすかが課題となります。

イ 一般相談事業について

一般相談においては、障害者理解の促進と同時に利用者交流スペースを利用して当事者同士の情報交換、仲間作りを支援してきています。一方、障害の問題を抱えた新たな相談が持ち込まれるケースがあり、一般相談事業の役割は大きいと考えています。丁寧な対応を心がけつつ利用者を広げてまいります。

ウ 職員の退職に伴い、相談支援専門員資格者が 1 名になってしまったため、一般相談事業の加算額が大幅に減少する事が予想されましたが、途中採用の 2 名が年度途中で相談支援専門員資格を取得しモニタリング等で大幅な増加をしてきています。

(3) ワクステーションきたかみ

資金収支において収入は利用者の増加に伴い増えてはいるが、収入に比べて支出の人件費が増加し収入の倍になっている。マイナスは生じていないが、経営的には、利用者の確保、利用者の利用率向上を図り収支の改善を図る必要があります。経営の安定を図るため、利用者の増加の方策と職員数の見直しをする必要があります。

(3) しらゆり工房

職員、利用者が一体となって、パン・菓子等の製造販売に努力しており、職員の退職等にもかかわらず一定の販売量を維持しています。今後は職員の定着を施設運営課題として取り組みます。

4 地域との連携

- (1) 社会福祉協議会が先頭に立ち「地域貢献をするための連絡協議会」をに参加をしながら法人としてどのような手段を講じて地域貢献できるか、模索していきたいと思えます。
- (2) ワクステーションきたかみでは、施設内駐車場において、地元農家と連携を保ちながら利用者が作成した生産物を「産直」という形で行っております。
- (3) しらゆり工房は、施設見学会を企画し近隣の方々に来店呼びかけを行い交流を図りました。